

自己の成長と人との関わりを促す『みんなの庭』を中心とした学校づくり

【業務への取組体制】

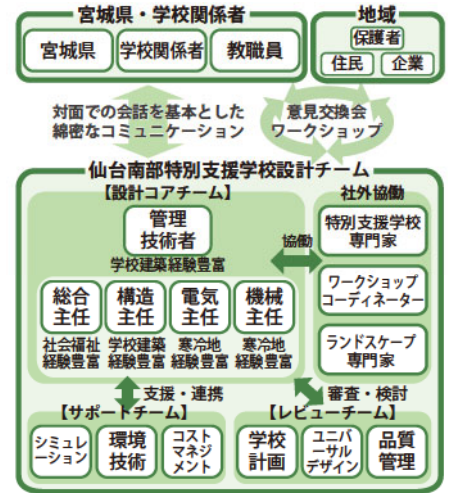
1. 直接対面コミュニケーションによる設計打合せを重視

- メールや電話ではなく常に対面での会話を基本に打合せを行い、宮城県・学校関係者・教職員との意思疎通を図り、きめ細かい設計を行います。
- 仙台の事務所を拠点とした、迅速で即応性の高い取組体制で臨みます。
- 同種業務の設計経験者による社内レビューや品質管理レビューを行うことで高品質な設計を確保する等、総合組織事務所の強みを活かします。
- 教職員や生徒・保護者、地域住民等、多様な方の意見に耳を傾け、計画に反映します。

【設計チームの特徴】

2. 豊富な経験の技術者と各分野の専門家によるプロジェクトチーム

- 学校の設計実績が豊富な管理技術者を中心に、障害者施設の設計実績が豊富な総合主任、寒冷地での設計実績が豊富な各主任技術者でチームを編成し、高品質な学校を実現します。
- 特別支援学校としてあるべき姿を実現するため、特別支援学校の専門家と協働します。
- 秋保の自然と共生し、広い敷地の維持管理に配慮するため、ランドスケープ専門家と協働します。
- 環境技術や品質管理、コストコントロールは全社を挙げたサポートのもと、確実に実行します。



【図1】仙台南部特地区別支援学校プロジェクトチーム

【特に重視する設計上の配慮事項】

3. 特別支援学校特有の指導領域である「自立活動」を促し、実践できる学校づくり

①健康の保持 <ul style="list-style-type: none"> 『みんなの庭』で朝の体操、生活リズムづくり 『ほんわか空調』で重複障害を持つ児童に配慮 	②心理的な安定 <ul style="list-style-type: none"> 個人から集団まで多様な居場所 静けさが必要な室の遮音性 木の温もり、優しさを内装材として活用 	③人間関係の形成 <ul style="list-style-type: none"> 学校に来ることが楽しくなる「3つの庭」 各学年のまとまりと学部間や地域との交流 	④環境の把握 <ul style="list-style-type: none"> 階段とスロープが顔を出す『みんなの庭』 EV、階段、WC等、分かりやすい色彩計画 	⑤身体の動き <ul style="list-style-type: none"> 『小学部の庭』の斜面を活用したバランス練習 学校の全てを社会自立への教材として活かす(水栓は多種類設置等) 	⑥コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 『おはようテラス』で元気にあいさつする学校 『ドマカフェ』で地域住民とも接客訓練
--	---	--	---	--	---

【図2】健康の保持

【図3】心理的な安定

【図4】人間関係の形成

【図5】環境の把握

【図6】身体の動き

【図7】コミュニケーション

4. 大規模事業評価答申にある3つの事項に配慮した設計の取り組み

①併設のメリットを活かす 一体感のある学校づくり <ul style="list-style-type: none"> 各学年ユニットが独立性を保ちつつ、互いの活動が把握できる校舎 食堂や職員室等の共用部は使いやすいように各学年ユニットの中央に配置 みんなの庭と口の字形校舎が学校への愛着と誇りを育む 	②地域企業等と連携できる 実践的教育的場づくり <ul style="list-style-type: none"> プライバシーから地域へとつながる施設配置 産業技術科の情報発信拠点として、ドマカフェの提案 実習室での活動風景を地域に発信するえんがわテラス 	③秋保の環境と調和した 地域のシンボルとなる学校づくり <ul style="list-style-type: none"> 環境に調和し、地域のシンボルとなる「口の字形校舎」 自然採光・換気の取り入れ、心地よい校舎 寄宿舎生の通学路として、既存桜並木を歩道整備
--	---	---

【図8】併設のメリットを活かす一体感のある学校づくり

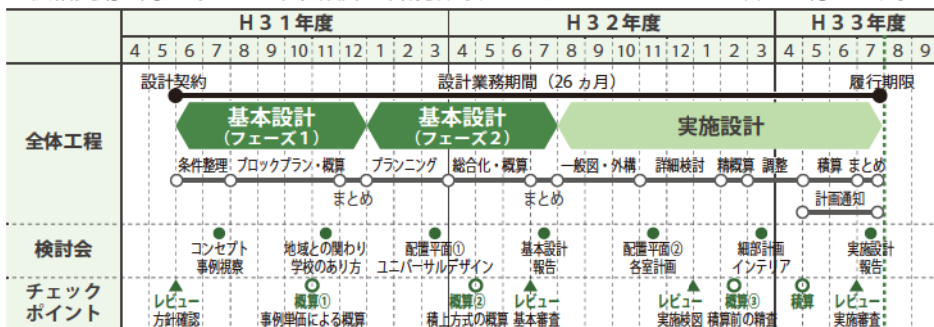
【図9】地域企業等と連携できる実践的教育的場づくり

【図10】秋保の環境と調和した地域の誇りとなる学校づくり

【その他の業務実施上の配慮事項】

5. 合意形成に重点をおいた設計・コスト管理の徹底

- 骨太で確固たるコンセプトを関係者間で共有するため、設計当初に計画の要となる小・中・高等学校と産業技術科併設のあり方、メリット等について話し合います。
- 設計と並行して検討会を実施し、事例視察や本施設特有の検討事項などを専門家を交えて議論しながら業務を進めていきます。
- 価格変動に対応できるように、設計の各段階でチェックをしながらコスト管理を行います。



【図11】対話を重視・合意形成に重点を置いた設計工程

6. あらゆる災害に強い学校づくり

- 耐震性の高い構造
 - 主要構造部の耐震性能(重要度係数1.25)を高めることはもちろん、仕上(二次部材)や設備機器が落下しない安全な計画
- 児童生徒が避難しやすい学校
 - 口の字形校舎とし、行き止まり廊下のない平面
 - 敷地の高低差を活かし、南側のグラウンドに直接避難できる断面計画(1、2階共避難階)
 - 車椅子も安全に避難できるゆったりしたスロープ
- 自然エネルギーの活用
 - 外断熱・断熱サッシ、自然通風、自然採光により、真冬でも最小限のエネルギーで過ごせる施設
 - 寄宿舎には太陽熱給湯+暖房システムを採用
 - 雨水回収+ろ過でトイレ洗浄水として活用
 - ソーラーウィンド街路灯等
- 災害の際でも児童生徒が安心して過ごせる学校
 - 非常用発電機を情報通信機能の確保や帰宅困難児童への対応に活用
 - 緊急車両と連携がとりやすい保健室の配置
 - 全周はしご車が寄り付ける配置計画

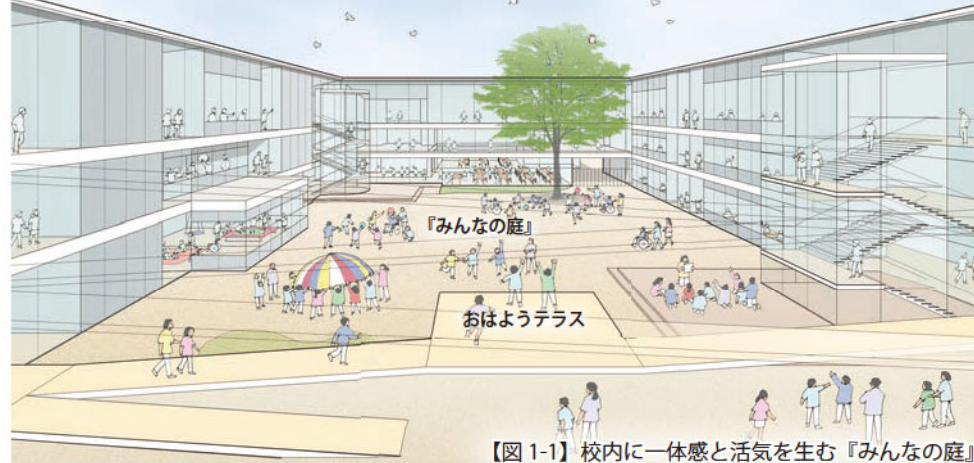
【図12】防災に対する配慮

『みんなの庭』を囲む「口の字形」校舎

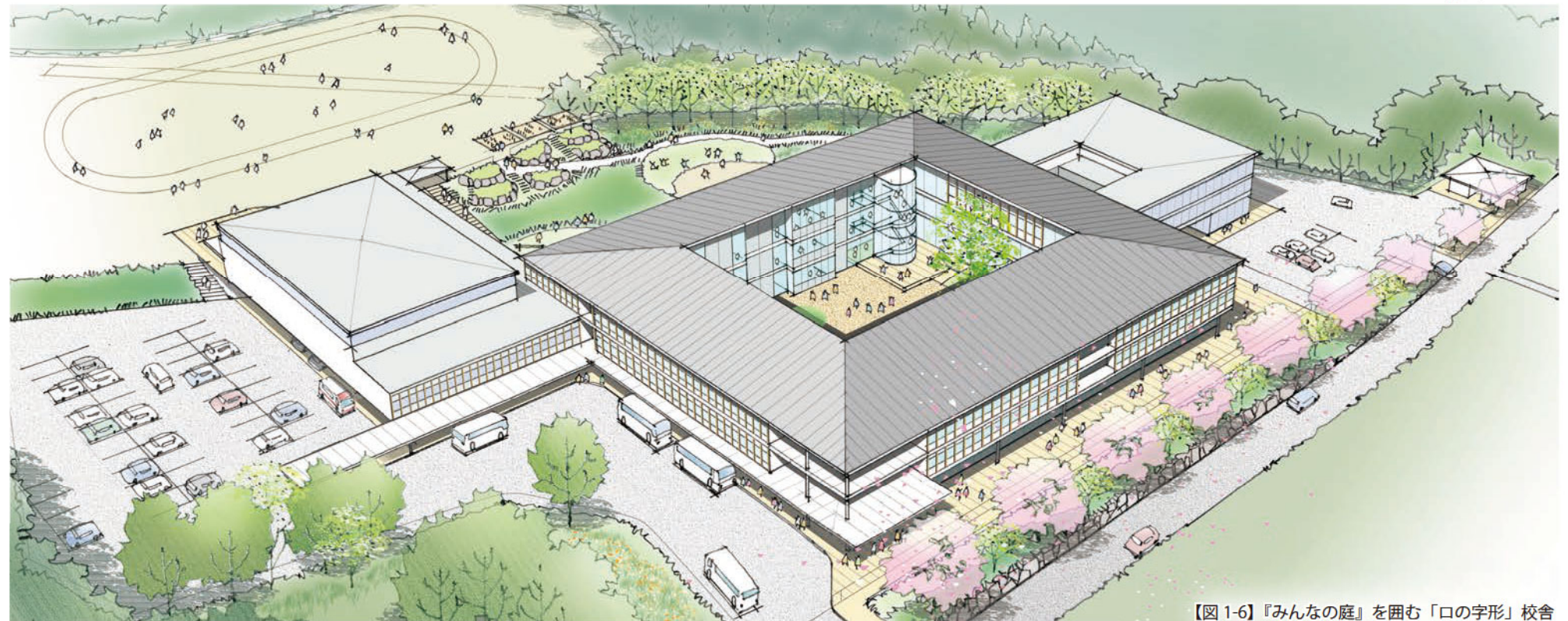
… 分かりやすい形を共有し、一体感と活気を生みます

小中高（普通科）と高等部（産業技術科）が併設されることのメリットを活かす共用スペースのあり方を大切にします。各学部の独立性を保ちながらもお互いの活動の様子がわかり、後輩に対するおもしろいや先輩に対する憧れを持ちながら12年間過ごすことが、子どもたちが個人から集団、そして社会の一員として成長するために必要な事だと考えます。

『みんなの庭』を囲む「口の字形」校舎が学校への愛着と誇りを育みます。



【図1-1】校内に一体感と活気を生む『みんなの庭』

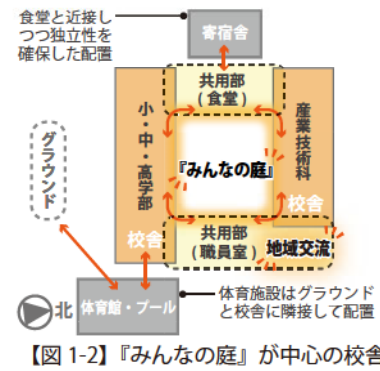


【図1-6】『みんなの庭』を囲む「口の字形」校舎

1. 『みんなの庭』を中心とした一体感のある学校

① お互いの活動の様子がわかり、様々な交流が生まれる『みんなの庭』

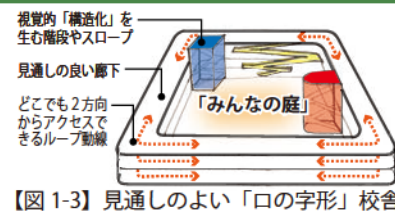
- 小中高（普通科）校舎と高等部（産業技術科）の校舎を『みんなの庭』を囲んで配置し、お互いの活動が『みんなの庭』に顔を出し、学校の一体感を生み出します。
- 昇降口、職員室、食堂などの共用部は2つの校舎の間に設け、最短の移動で済む分かりやすい計画です。
- 体育施設（プール、体育館）は校舎とグラウンドの両方に隣接して計画します。
- 寄宿舎は校舎食堂と近接しながら、独立して西側に計画します。



3. 見通しが良く、コンパクトで、安全安心な校舎

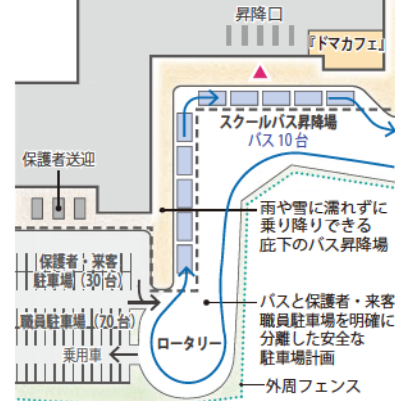
① 見通しのよい「口の字形」校舎

- 特徴のある二つの階段とスロープが顔を出す『みんなの庭』が、視覚的「構造化」を生み、児童・生徒が校内での自分の位置を理解しやすくなります。
- 見通しの良いまっすぐな廊下と、何処にでも二方向からアプローチできるループ動線とします。



② 広くて安全な昇降口広場

- 歩車分離を徹底して、児童生徒の安全を確保します。
- バスがゆったり転回できるロータリーと、バスが10台停車できる長い車寄せを確保します。
- 校内において、バスは前進のみで運行し、危険性の高い後進は必要ないバス動線とします。
- 体育館下ピロティを利用して屋根のある保護者送迎スペースを計画します。

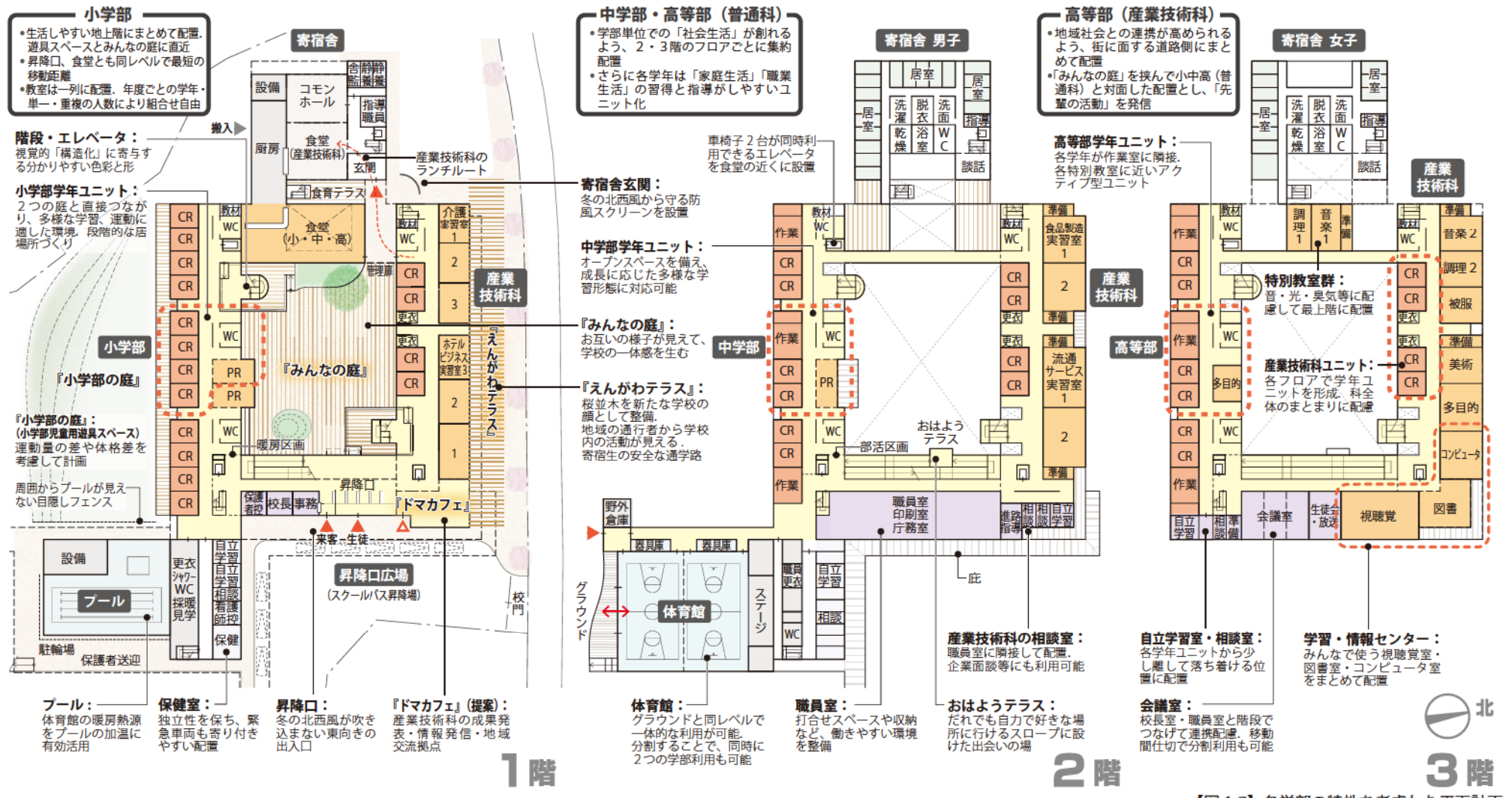


③ 食の安全と機能性に配慮した食堂と厨房

- 二つの食堂に直接面する効率的な厨房とします。
- 配膳指導がしやすい長いカウンターを計画します。
- 寄宿舎食堂へは専用のランチルートを確認します。

2. 個別指導から集団学習まで大小にユニット化できる教室配置

① 小学部から高等部まで12年間を見通した教育環境づくり



小学部

- 生活しやすい地上階にまとめて配置。遊具スペースとみんなの庭に直近
- 昇降口、食堂とも同レベルで最短の移動距離
- 教室は一列に配置。年度ごとの学年・単一・重複の人数により組合せ自由

階段・エレベータ：視覚的「構造化」に寄与する分かりやすい色彩と形

小学部学年ユニット：2つの庭と直接つながり、多様な学習、運動に適した環境、段階的な店舗をつくり

寄宿舎

- 生活しやすい地上階にまとめて配置。遊具スペースとみんなの庭に直近
- 昇降口、食堂とも同レベルで最短の移動距離
- 教室は一列に配置。年度ごとの学年・単一・重複の人数により組合せ自由

階段・エレベータ：視覚的「構造化」に寄与する分かりやすい色彩と形

寄宿舎学年ユニット：2つの庭と直接つながり、多様な学習、運動に適した環境、段階的な店舗をつくり

中学部・高等部(普通科)

- 学部単位での「社会生活」が創れるよう、2・3階のフロアごとに集約配置
- さらに各学年は「家庭生活」「職業生活」の習得と指導がしやすいユニット化

寄宿舎玄関：冬の北西風から守る防風スクリーンを設置

中学部学年ユニット：オープンスペースを備え、成長に応じた多様な学習形態に対応可能

高等部(産業技術科)

- 地域社会との連携が高められるよう、街に面する道路側にまとめて配置
- 「みんなの庭」を挟んで小中高(普通科)と対面した配置とし、「先輩の活動」を発信

高等部学年ユニット：各学年が作業室に隣接。各特別教室に近いアクティブ型ユニット

『小学部の庭』：(小学部児童用遊具スペース)運動量の差や体格差を考慮して計画

周囲からプールが見えない目隠しフェンス

『みんなの庭』：お互いの様子が見えて、学校の一体感を生む

『えんがわテラス』：桜並木を新たな学校の顔として整備。地域の通行者から学校内の活動が見える。寄宿舎の安全な通路

『みんなの庭』：お互いの様子が見えて、学校の一体感を生む

『えんがわテラス』：桜並木を新たな学校の顔として整備。地域の通行者から学校内の活動が見える。寄宿舎の安全な通路

『みんなの庭』：お互いの様子が見えて、学校の一体感を生む

『えんがわテラス』：桜並木を新たな学校の顔として整備。地域の通行者から学校内の活動が見える。寄宿舎の安全な通路

特別教室群：音・光・臭気等に配慮して最上階に配置

産業技術科ユニット：各フロアで学年ユニットを形成。科全体のまとまりに配慮

産業技術科の相談室：職員室に隣接して配置。企業面談等にも利用可能

自学習室・相談室：各学年ユニットから少し離れて落ち着ける位置に配置

学習・情報センター：みんなで使う視聴覚室・図書室・コンピュータ室をまとめて配置

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

特別教室群：音・光・臭気等に配慮して最上階に配置

産業技術科ユニット：各フロアで学年ユニットを形成。科全体のまとまりに配慮

産業技術科の相談室：職員室に隣接して配置。企業面談等にも利用可能

自学習室・相談室：各学年ユニットから少し離れて落ち着ける位置に配置

学習・情報センター：みんなで使う視聴覚室・図書室・コンピュータ室をまとめて配置

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

特別教室群：音・光・臭気等に配慮して最上階に配置

産業技術科ユニット：各フロアで学年ユニットを形成。科全体のまとまりに配慮

産業技術科の相談室：職員室に隣接して配置。企業面談等にも利用可能

自学習室・相談室：各学年ユニットから少し離れて落ち着ける位置に配置

学習・情報センター：みんなで使う視聴覚室・図書室・コンピュータ室をまとめて配置

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

プール：体育館の暖房熱源をプールの加温に有効活用

保健室：独立性を保ち、緊急車両も寄り付きやすい配置

昇降口：冬の北西風が吹き込まない東向き出入口

『ドマカフェ(提案)』：産業技術科の成果発表・情報発信・地域交流拠点

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

体育館：グラウンドと同レベルで一体的な利用が可能。分割することで、同時に2つの学部利用も可能

職員室：打合せスペースや収納など、働きやすい環境を整備

おはようテラス：だれでも自力で好きな場所に行けるスロープに設けた出合いの場

特別教室群：音・光・臭気等に配慮して最上階に配置

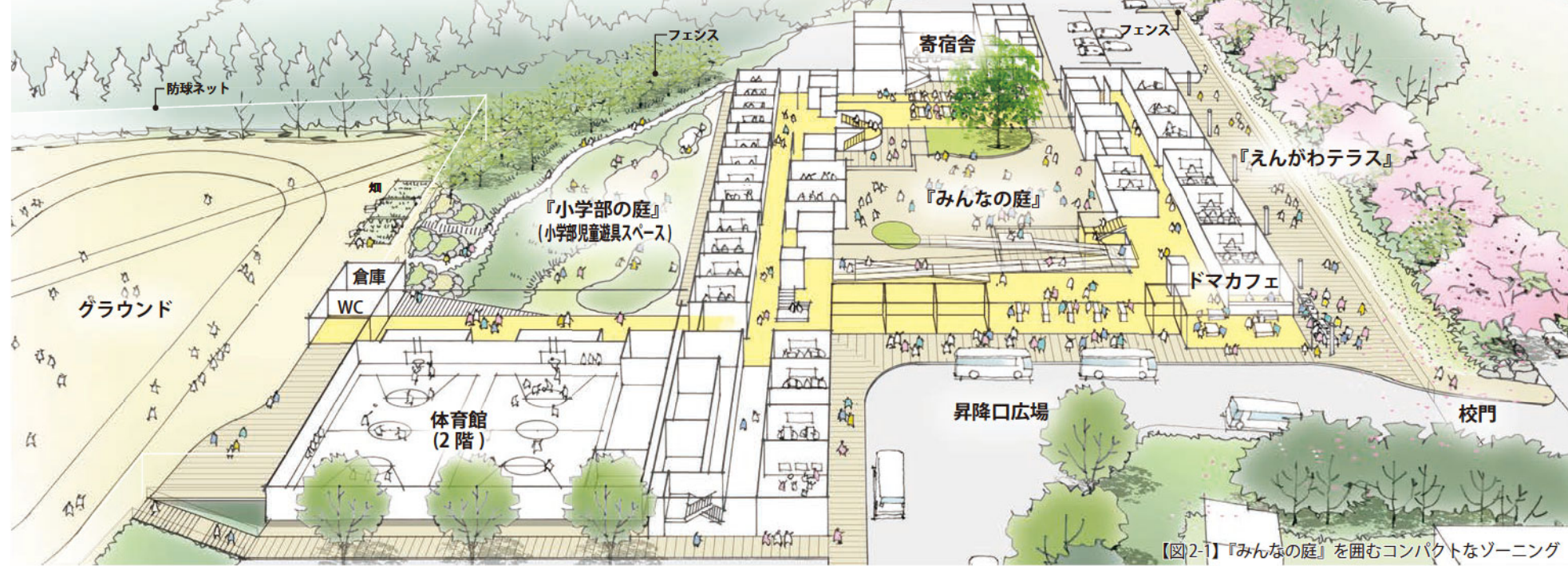
産業技術科ユニット：各フロアで学年ユニットを形成。科全体のまとまりに配慮

産業技術科の相談室：職員室に隣接して配置。企業面談等にも利用可能

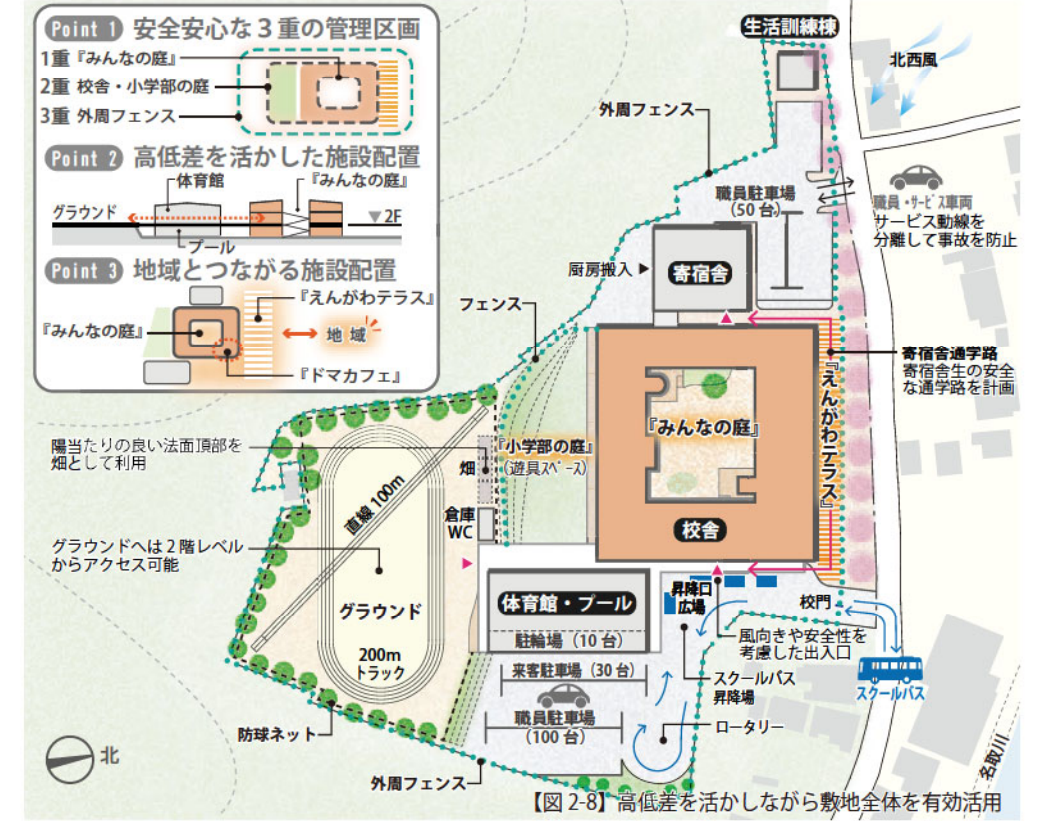
自学習室・相談室：各学年ユニットから少し離れて落ち着ける位置に配置

学習・情報センター：みんなで使う視聴覚室・図書室・コンピュータ室をまとめて配置

整形な校舎を中心に展開するコンパクトなゾーニング ……秋保のまちとスムーズにつながる



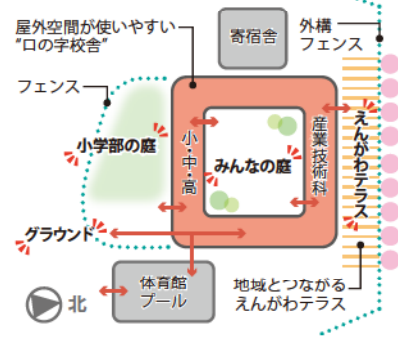
【図2-1】『みんなの庭』を囲むコンパクトなゾーニング



【図2-8】高低差を活かしながら敷地全体を有効活用

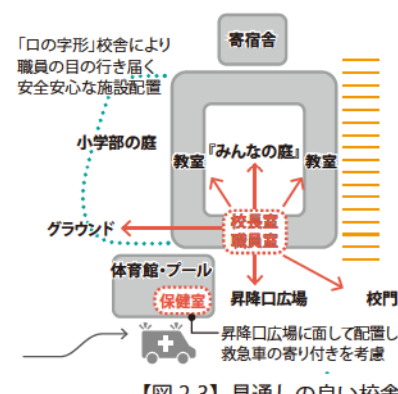
1. 「口の字形」校舎を中心に各施設を隣り合わせて配置

- ①口の字の整形な校舎を中央に配置し、各施設と屋外空間を使いやすく結ぶ**
- 敷地中央に整形でコンパクトな校舎を配置し、不整形な敷地を余すことなく利用します。
 - 校舎に囲まれた安全な屋外空間としての『みんなの庭』を計画します。
 - 体育館は小中高（普通科）に隣接し、高台のグラウンドと同じレベルで一体利用できる計画とします。
 - 寄宿舎は校舎に隣接させながら独立性を高めます。
 - 小学部の庭（小学部児童遊具スペース）は、既存斜面を活かし、囲われた安全な遊び場とします。



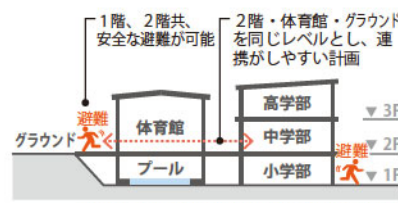
【図2-2】屋外空間を使いやすく結ぶ

- ②教職員の目が行き届く安全安心な施設配置**
- 校舎に囲まれた『みんなの庭』は、校舎のどこからでも目が届き、子どもたちが自由に使える、教職員にとっても安心な屋外空間となります。
 - 職員室や校長室は「昇降口広場」（スクールバス昇降場）に面して、直接目の届く配置とします。
 - 職員室からグラウンドへの視線も確保します。
 - 保健室は緊急車両の寄り付きやすい、昇降口広場に面した1階に配置します。
 - 小中高（普通科）と産業技術科の2つの食堂を対面して配置することで、互いに目が行き届き、緊急時にも素早い対応ができる計画とします。



【図2-3】見通しの良い校舎

- ③敷地高低差を活かしたコンパクトで使いやすい配置**
- 体育館は小中高の各学部が行きやすい2階とし、グラウンドと連携しやすい計画とします。
 - 1階と2階がそれぞれ避難階となるため、安全に避難できます。
 - 高台は200mトラックと100m直線コースの他、日当たりの良い法面頂部を畑として活用します。



【図2-4】敷地高低差を避難に活用

2. 地域とのつながりを継承発展し、共有する多様な場をつくる

- ①地域と連携し「地域とつながる」「地域を育てる」**
- 旧拓桃支援学校からの地域や地元企業との結びつきを継承し、地域との多様な交流の場となり、シンボルとなる「口の字形」の学校を提案します。
 - 『みんなの庭』は、学校祭、PTA行事など地域との交流やイベントにも利用できます。
 - 『えんがわテラス』は芋煮会シーズンには観光客などへの食材販売などにも利用できます。



【図2-5】秋保の中域に位置する施設

- ②産業技術科と地域や企業との接点となる『ドマカフェ』**
- 校門に近い場所に産業技術科の情報発信拠点として『ドマカフェ』提案します。
 - 『ドマカフェ』は生徒による、飲食サービス、物販、実演など実践を通して生徒の育成を促します。
 - 保護者の送迎の待合所としても利用でき、保護者、児童生徒、教職員の気軽なコミュニケーションの場となります。



【図2-6】地域との交流空間



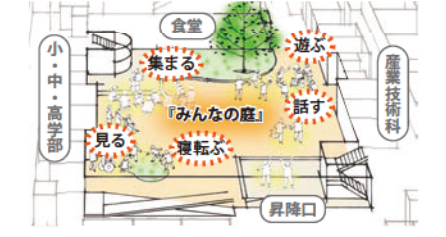
【図2-7】産業技術科と地域との交流の場となる『ドマカフェ』

3. 安全で学校に来ることが楽しくなる3つの外部空間

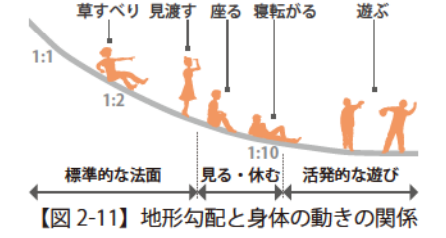
- ①旧拓桃支援学校の記憶を継承し、地域に開かれた『えんがわテラス』**
- 歩道のない前面道路側の空地に余裕をもたせ、安全な寄宿舎生の通学路として、桜並木を再生します。
 - 桜並木に面した『えんがわテラス』の一部に屋根があり、イベントにも利用できるなど、地域に対する新たな学校の顔となります。
- ②日常の屋外活動から校内行事まで使える『みんなの庭』**
- 『みんなの庭』は校舎全体が見渡せる屋外空間です。
 - 2つの階段の足元は屋外発表ができるステージ状に整備して屋外交流の起点となるようにします。
 - 色や形の違う階段やスロープ、シンボルツリーの配置により視覚的「構造化」ができる計画とします。
- ③高低差を活かした“感覚統合”の教材としての『小学部の庭』**
- 既存法面を緩やかに成形し、気軽に体力づくりに取り組める『小学部の庭』を計画します。
 - “感覚統合”の教材として、子どもたちの感覚を刺激し、環境把握の発達を促します。
 - 柔らかい緑の斜面に囲まれた『小学部の庭』はみんなの庭同様、教職員の目が行き届く安全安心な庭です。



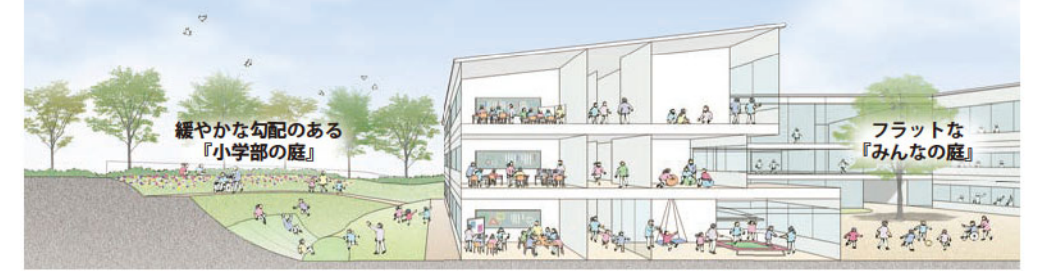
【図2-9】学校の顔となる『えんがわテラス』



【図2-10】安心安全な『みんなの庭』

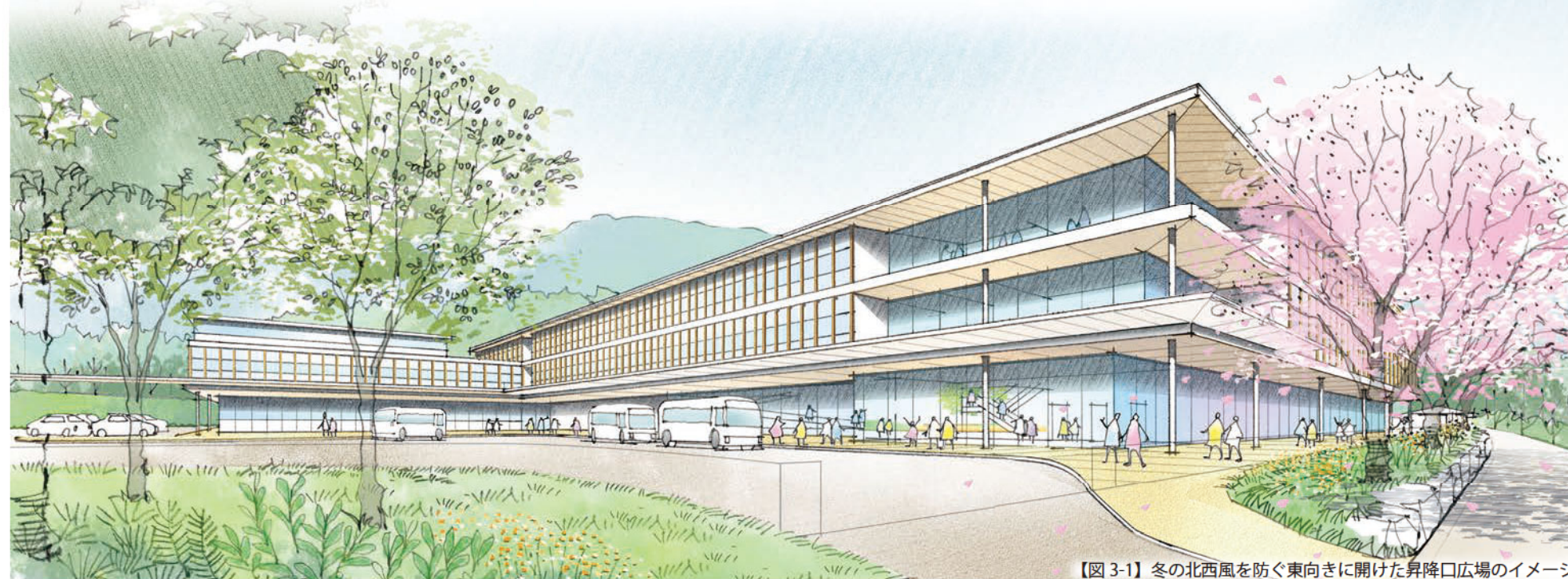


【図2-11】地形勾配と身体の動きの関係



【図2-12】多様な屋外空間に隣接した小学部

「コンパクト化」による管理運営のしやすさと、永く使い続ける学校づくり



【図 3-1】冬の北西風を防ぐ東向きに開けた昇降口広場のイメージ

1. 自然を最大限活用したエコスクール

①外断熱による一年中快適で健康的な校舎

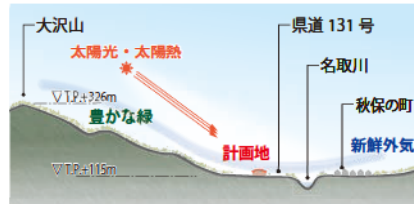
- 外断熱と断熱サッシにより、外皮負荷を低減し、最小限のエネルギーで空調する計画とします。
- 外断熱の採用により、内部結露を防ぎます。

②全室南向きの普通教室

- 南向きの窓と庇により、夏は日射を遮り、冬は陽だまりを取りこむ計画とします。

③光と風を上手に取り入れる

- 各学年ユニットに「風と光のとおりみち」を設けることで、南の風や光を取り込み、空調や照明に頼ることなく、心地の良い共用部とします。
- 真夏でも朝晩は20℃程度に下がる秋保の気候特性を活用し、ナイトパーズを行います。日中冷房無しで過ごせる期間を出来るだけ長くします。



【図 3-2】秋保の自然を活用するイメージ



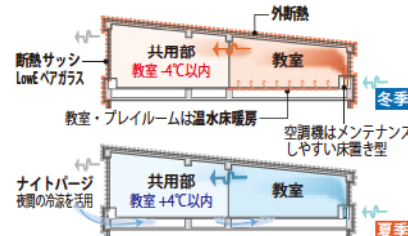
【図 3-3】風と光のとおりみち

④児童・生徒にやさしい『ほんわか空調』

- 体温調節の難しい重複障害児童に配慮して、教室と共用部の温度差を4℃以内に抑え、コストにも配慮した『ほんわか空調』を行います。
- 普通教室、プレイルーム、体育館は足元が温まりやすい温水床暖房を採用します。
- 冬のインフルエンザ対策や夏の蒸し暑さを緩和するため、外調機による湿度管理を徹底します。

⑤効果的な省エネルギー・省コスト設備を導入

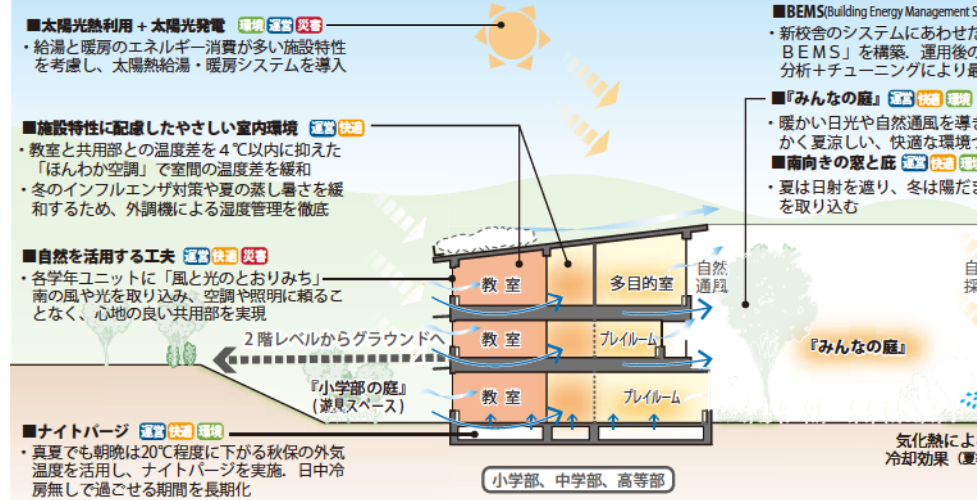
- 給湯と暖房のエネルギー消費が多い施設特性を考慮して、太陽熱給湯・暖房システムを導入します。(灯油ボイラーに比べて20.2%のLCC削減)
- 体育館の暖房熱源を、屋内プールの加温や温水シャワーにも活用し、費用対効果を高め、プール運用ができる期間を長くします。



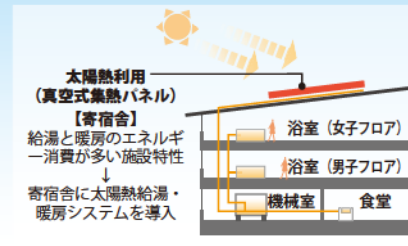
【図 3-5】温度差を和らげる『ほんわか空調』

従来方式	電灯動力	空調	給湯	水道	下水
3,031万円/年					
提案方式					
2,420万円/年					
	削減率20.2% (電気)				

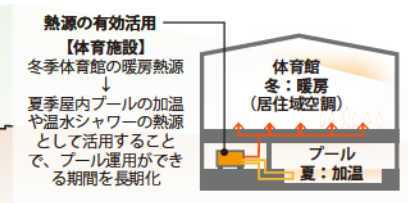
【図 3-6】光熱費削減効果



【図 3-4】3つの屋外空間とつながるエコスクール



【図 3-7】太陽熱給湯・暖房システム

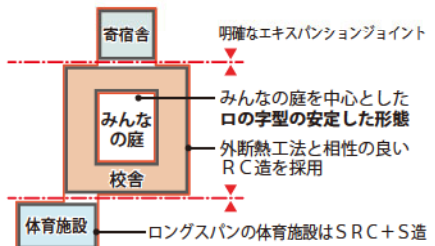


【図 3-8】体育館暖房熱源のプールへの活用

2. 明快な構造計画による安全安心とイニシャルコスト削減の両立

①口の字形で総3階の安定した形

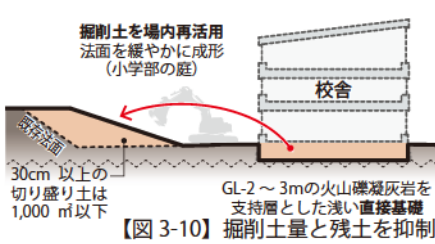
- 校舎は、耐震、耐火性能等を考慮して、かつ外断熱工法と相性の良いRC造とします。
- 整形な「口の字形」平面は偏心が少なく、安定した骨格をつくることができます。
- 適正階高やスパンの異なる寄宿舎や体育施設とはエキスパンションジョイントで構造的に分離し、安全で合理的な計画とします。



【図 3-9】口の字型の安定した形態

②残土の排出を無くしイニシャルコスト抑制

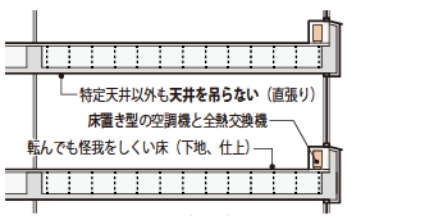
- 掘削土量を抑えつつ、場内再利用することで、残土を場外に出さず、コスト削減を図ります。
- 体育施設棟の主要構造はSRC造、屋根はS造として軽量化することで、躯体費を抑制します。
- スパンを統一することで、材料の規格化と施工の効率化を図り、イニシャルコストを抑制します。



【図 3-10】掘削土量と残土を抑制

③天井や設備機器を吊らない安全な教室

- 天井材を極力吊らない安心な計画とします。
- 空調機は落下の心配がなく、メンテナンスも容易な床置き型を基本とします。
- 主要構造部の耐震性能を高め、地震時の揺れ(変形角)を抑制し、仕上げを含めた破損を軽減します。

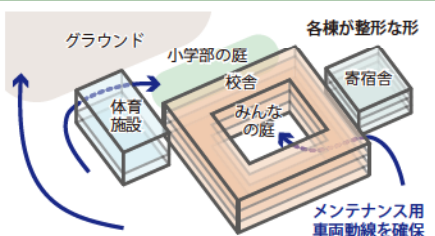


【図 3-11】天井や設備機器を吊らない計画

3. 手間がかからず永く使い続けられる校舎

①整形で凹凸の少ない形によるLCC削減

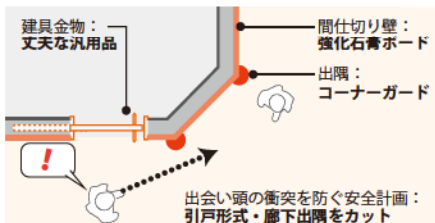
- 各棟とも整形で凹凸の少ない形にするとともに、ユニット化を図ることで工事費を削減します。
- 工場製作品を活用することで、品質確保と労務の効率化を図り、イニシャルコストを抑制します。
- 整形な校舎は内外装ともに維持管理がしやすく、建物の劣化を防ぎます。
- みんなの庭、小学部の庭、グラウンドはメンテナンス車両が出入りできる経路を確保します。



【図 3-12】整形で凹凸の少ない形

②耐久性の高い材料選定によるLCC削減

- 屋根や外壁等の外装材は、耐久性や保安全性を重視し、基本設計段階で複数種類、費用対効果を比較検証して提案します。
- 間仕切り壁には、耐衝撃性に優れた強化石膏ボードを使用し、出隅にコーナーガードを設ける等の工夫により、安全で長持ちするよう配慮します。
- 建具丁番や取手など、壊れやすい可動部分は特に丈夫な仕様品の汎用品を選定します。
- 外部に面する出入口や窓は極力引き戸形式とし、風で煽られても破損しないよう配慮します。
- 空調ガリは手の届かない位置、消火器ボックスは鍵付き等、悪戯されにくい計画とします。



【図 3-13】耐久性の高い材料

③将来の変化を見通した計画

- 将来の児童生徒の増加にも対応できるよう、寄宿舎北側に増築スペースを確保します。
- 年度ごとの単一と重複の比率変化などに対応できる間仕切り壁として、移動できる収納ユニットを組み込むなど、改修しやすい計画とします。
- 将来の冷房化や機器更新に備えて、設備シャフト、予備スリーブの確保、機器増設分を見込んだ電源容量確保に配慮した計画とします。



【図 3-14】将来増築スペースの確保



【図 3-15】可変性のある収納ユニット